



リーディング・サイエンス・プラン II

名古屋市立大学 大学院システム自然科学研究科

総合生命理学部 未来プラン

理学系学部・研究科として世界的な先端研究を推進、
組織の充実により名古屋圏域の基礎科学教育をリードし、
地域の発展をサポートします

システム自然科学研究科・総合生命理学部の歴史



- 平成 8 年 4 月 自然科学研究教育センター 設置
- 平成 12 年 4 月 システム自然科学研究科 設置
- 平成 21 年 12 月 生物多様性研究センター 発足
- 平成 26 年 4 月 4 系から 2 系（生命情報系・自然情報系）に再編
- 平成 27 年 4 月 専攻名を「生体情報」から「理学情報」に変更
- 平成 30 年 4 月 総合生命理学部設置

研究科の使命と未来への課題

課題1

研究実施体制の
整備

研究内容の高度化
イノベーションの創出

研 究

課題2

総合大学としての
魅力向上

大学間競争の激化
社会からの要請に応える
人材育成

教 育

課題3

教育の充実

志望学生からの
ニーズへの対応
指導体制の強化

課題4

国際化の進展への
対応

国内学生の減少
留学生獲得競争の
激化

国 際 化

課題5

名古屋市の
科学教育の充実

中高科学教育の強化
シニア層の増加

地 域 貢 献

課題6

市民への
研究成果の還元

市民のための大学
研究教育成果の還元

研究

プラン 1: 先端研究の推進

期間 ii ~ iv

【課題】

- 先端研究を推進して、研究分野で世界をリードする学部・研究科を目指す必要があります。
- イノベーションを創出する研究体制を構築する必要があります。

【進め方】

- 研究基盤の重点的な整備を推進し既存の研究センターの機能を高め、研究科横断的な新規研究センターにつながるプロジェクトを作ります。
- 研究設備の充実を図り、複数教員による研究連携体制を強化していきます。
- 医学研究科・薬学研究科、また学外の研究機関と連携して研究の効率的な推進を目指します。
- 研究科内部研究会を進め、競争的研究資金への積極的な応募、研究資金の増大を目指します。

(関連する未来プランの項目)

未来プラン I-(2)

未来プラン III-(4)

期間 ii: 今後4年間に実現 ~ iv: 15年後を見すえて

(2) 世界をリードする大学への発展

〈未来像〉

■ 世界大学ランキング(※)の上位を占めるような、研究・教育の分野で世界をリードする大学への発展を目指します。

期間 ii: 今後4年間に実現

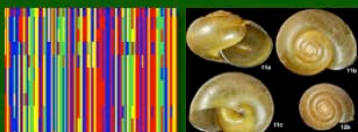
(4) 共用研究施設・設備の充実

〈未来像〉

■ 各研究科が設置する共用研究施設・設備の全学での共同利用をさらに進めるとともに、共用研究施設・設備の充実を図ります。

生物多様性研究センター

- 標本の拡充
- DNAバーコード計画
- 多様性セミナー開催
- 学外機関との連携



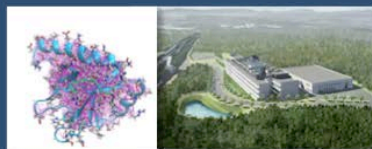
先進研究プロジェクト

新物質合成分析プロジェクト

- 大型研究施設との連携
知の拠点あいち
SPring-8
- 地域企業との連携
新物質の提供
高効率合成法の開拓
- 医・薬との連携
高効率物質合成法の開拓
医薬品の結晶化学研究

情報メディア教育研究プロジェクト

- 総合情報センターと連携
システム開発を含めた
多角的な協力
- ICTを活用した教育
新システムの導入・運用
- 他部局・機関との連携
調査・研究の協力
外部資金獲得



教育

プラン 2: 教育実施体制の充実

期間 ii ~ iv

【課題】

- 全学体制で教養教育を充実させる必要があります。
- 公立の総合大学としての魅力を向上させる必要があります。
- 基礎科学を推進する人材、理学分野の教育を担う人材を育成する必要があります。
- 学部から大学院まで一貫した教育により、優れた教育を実施する必要があります。

【進め方】

- 教養教育改革の推進に協力するとともに、理数系科目について、引き続き担当部局として責任を持って対応します。
- 社会的ニーズについて調査を進め、新学部の拡充をめざします。
- 学部生が自信をもって進学できる分かりやすい大学院名称に変更します。
- 優秀な大学院生が集まる入試制度にします。
- 教育環境充実のため新学部・研究科棟の建設をめざします。

(関連する未来プランの項目)

未来プラン I-(5)

期間 ii:今後4年間に実現 ~ iii:今後8年間に実現

(5) 新学部の設置

〈未来像〉

■公立の総合大学としての魅力向上と、地域貢献の促進のため、新しい学部の設置に向けて取り組みます。

プラン 3: 教育内容の専門化

期間 ii ~ iv

【課題】

- 学生の志望分野に合わせた対応をする必要があります。
- 学生の指導体制を強化する必要があります。
- 研究科教員の分野間のバランスを取る必要があります。

【進め方】

- 教員数を増やし、2学科化・2専攻化による教育体制の充実をめざします。
- 時代の要請に応え、バランスの取れた分野構成を目指します。
- 新学部の学生定員増を目指します。
- 新学部からの進学者に対応できる大学院生の受け入れ増をめざします。



(関連する未来プランの項目)

未来プラン II-(3)

期間 ii:今後4年間に実現 ~ iii:今後8年間に実現

(3) 学生数・教員数の増加

〈未来像〉

■本学が優れた教育・研究を行うために必要な大学規模を構想し、学生数の増加と必要な教員の配置等の体制整備に向けて取り組みます。

国際化

プラン 4: 国際化の推進

期間 i ~ iii

【課題】

- 国内学生や大学院進学者の減少に対して対策を講じる必要があります。
- 留学生の獲得競争の激化に対して、対策を講じる必要があります。
- 海外の大学との連携による研究推進を進めることが期待されています。
- 学部生の留学プログラムが必要です。

【進め方】

- 優秀な留学生を獲得するための支援体制の確立と入試方法の改革が必要です。
- 生物の多様性に関わる国際研究協定の締結と交流の拡大を目指します。
- 国際共同プログラムへ積極的に応募し、共同研究を推進します。
- 海外の複数大学と大学間協定を締結します。
- 学部の私費留学生入試を始めます。

(関連する未来プランの項目)

未来プラン V-(3)

期間 ii: 今後4年間に実現

(3) 生物多様性研究の国際的な拠点づくり

〈未来像〉

■ 生物多様性研究の国際的な拠点づくりと、生物多様性ホットスポットの多い東南アジアを対象に国際貢献をします。

海外大学との交流状況

カセサート大学 (タイ)

- 平成 26 年 12 月 生物多様性に関する共同研究の協力協定を締結
- 平成 27 年 1~4 月 研究者招へい、共同研究開始
- タイ沿岸水圏動物の約 100 種の標本登録



ブラウィジャヤ大学 (インドネシア)

- 国費留学生受け入れ
- 平成 26 年 9~11 月 協力締結に向けて相互視察訪問



今後、連携をめざす大学

ボン大学 (ドイツ)



ムルシア大学 (スペイン)



内蒙古工業大学 (中国)



東北林業大学 (中国)



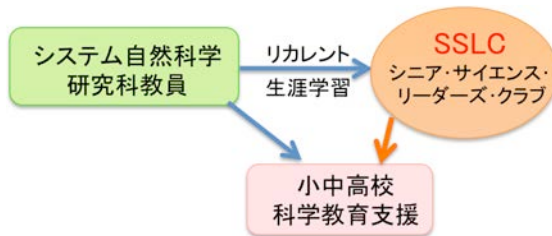
地域貢献

プラン 5: 学外との連携強化

期間 i ~ iv

【課題】

- 生物多様性研究センターの役割を発展させるため、より一層学内外との連携を推進する必要があります。
- 名古屋市の中高生の科学教育を強化し、優秀な学生を育成する必要があります。
- 名古屋市教育委員会と連携して、科学教育をさらに充実させる必要があります。
- シニア世代の増加と科学教育を連結させることが重要です。



【進め方】

- 生物多様性研究センターが培った学外との連携をより深め、さらに学内他部局との連携事業を発展させます。
- SSH 採択校との連携を積極的に進め、理科教育の充実を目指します。
- 高大接続を充実し、地元の優秀な学生の育成を目指します。
- 自然科学の知識と経験を有する、向上心に富んだ高齢者の新たな活躍の場として、初等・中等教育における科学振興に携わる SSCLC (シニア・サイエンス・リーダーズ・クラブ) の設立を目指します。

(関連する未来プランの項目)

未来プラン IV-(6)

(6) 高大連携の推進による地元の優秀な学生の育成

〈未来像〉

- 高大連携を推進し、地元の優秀な学生の育成を目的とする入学試験の制度設計を行います。

未来プラン IV-(5)

(5) 名古屋市教育委員会との連携強化

〈未来像〉

- 名古屋市教育委員会との包括的連携協定を基礎に、「子ども応援委員会」、高大連携等、多面的な分野での連携を強化します。

プラン 6: 地域貢献の推進

期間 i ~ iv

【課題】

- 市民へ研究成果の還元をする必要があります。
- 市民へ理科系科目の重要性を説明し、関心を向上させる必要があります。
- 生涯学習や学び直しを推進する必要があります。
- 学生の地域貢献を通じた学習機会を提供する必要があります。

【進め方】

- サイエンスカフェ、市民公開講座を継続して進め、発展させることを目指します。
- 科学館と連携したサイエンスパートナーシップイベントを継続して実施します。
- SSCLC で育成した人材を登録派遣して、教育の充実を目指します。
- 理科系の教育・普及・人材育成を統合させた、名市大科学教育推進センター(仮称)の設置を目指します。

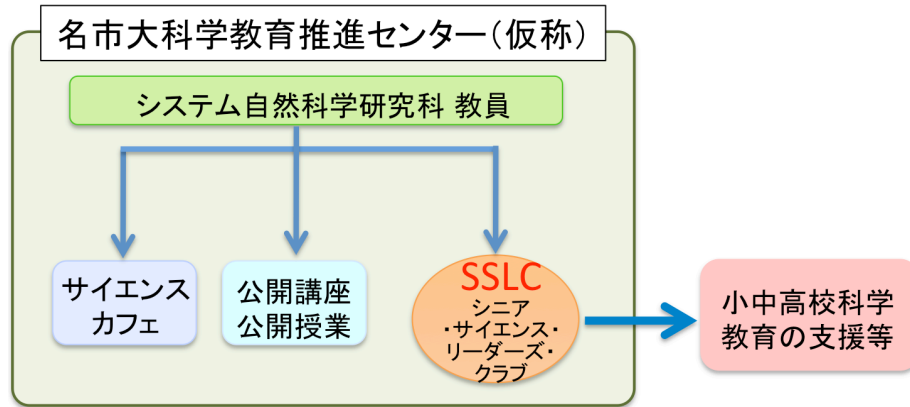
(関連する未来プランの項目)

未来プラン IV-(8)

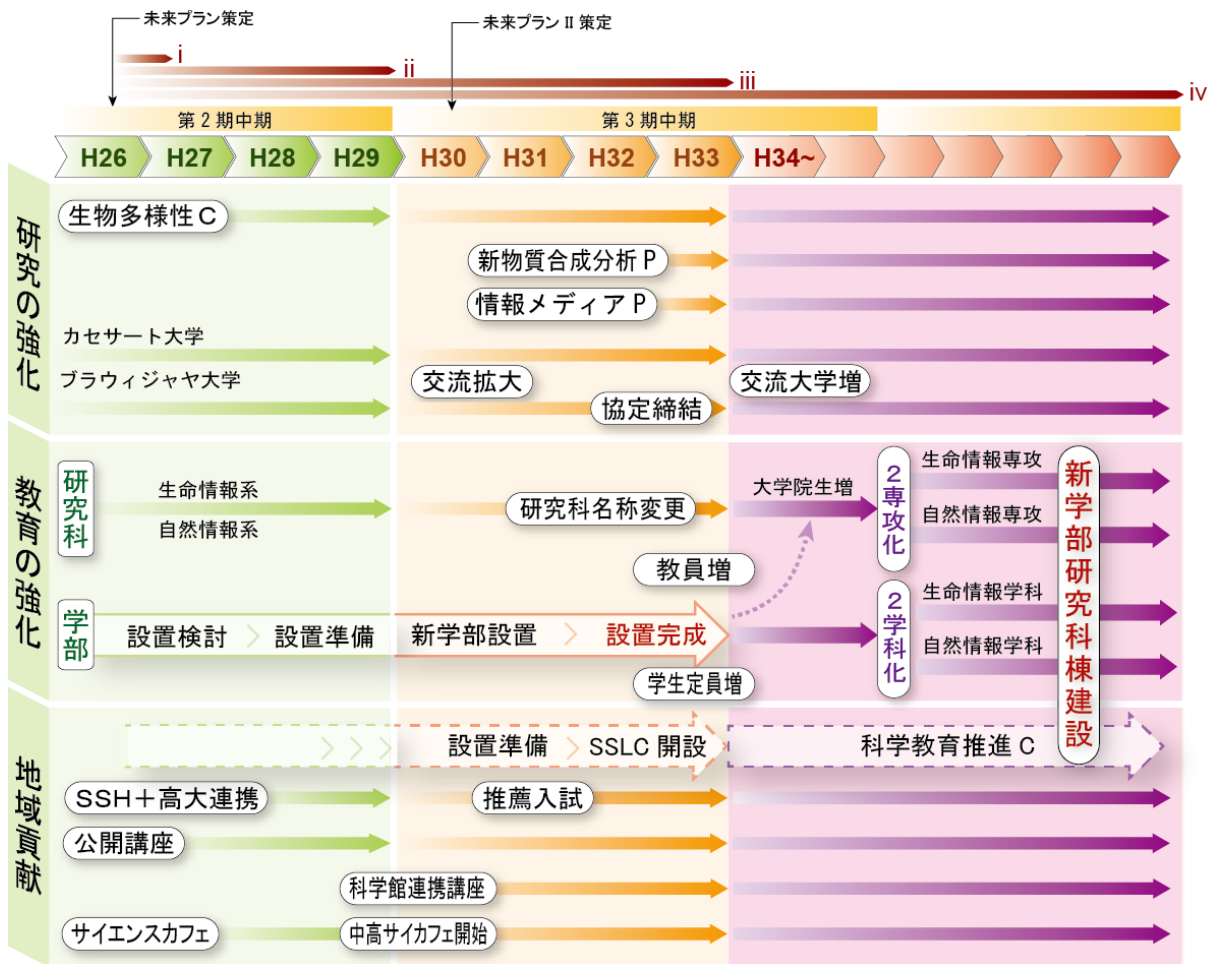
(8) 地域に開かれた大学

〈未来像〉

- 大学施設を市民に開放するほか、幅広い世代の市民に生涯学習機会を提供するなど、「地域に開かれた大学」として社会貢献に努めます。



施策の年次計画



●実現までの期間

- i …1年以内を実現させる事項
- ii …3年以内(平成29年度末まで)を実現させる事項
- iii …7年以内(平成33年度末まで)を実現させる事項
- iv …15年後を見据えながら実現に向けて取り組む事項